



今週の T2 経済レポート

2019年10月4日号

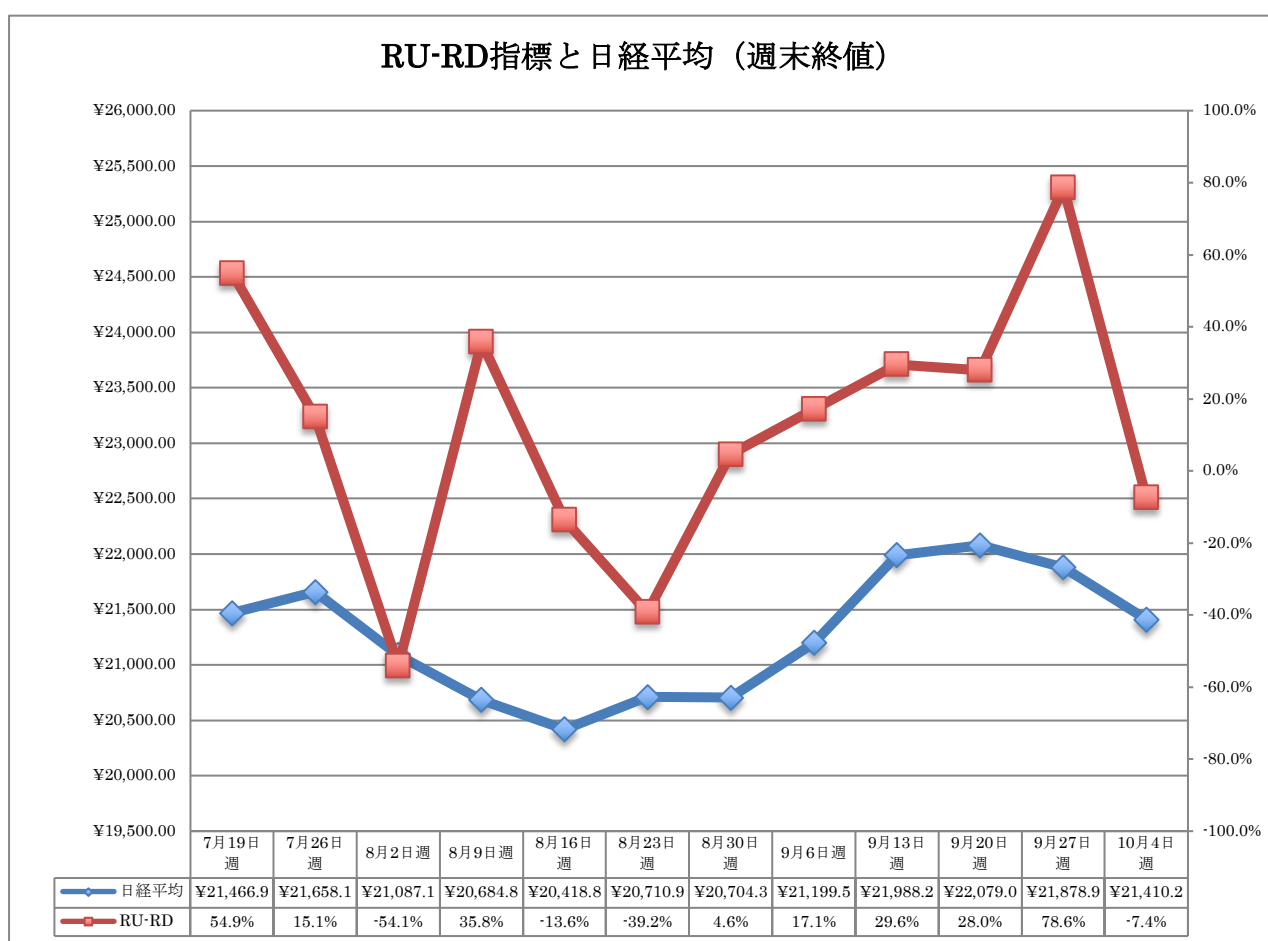
■■■ 市場ウオッチ ■■■

<先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は急落調整を警戒しなければならない週となりそうです。今週(9/30~10/4)の相場を占う『RU-RD 指標』は9月20日週が-7.4%と6週間振りにマイナス圏に陥っていることから急落調整を警戒しなければなりません。ただ、来週(10/7~10/11)の相場を占う9月27日週が+27.8%と再びプラス圏に浮上していることから急反発が期待され、今週、予告通りに急落調整すれば買いチャンスとなります。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が9月13日週+55.7%→9月20日週+64.3%→9月27日週+68.6%と3週連続上限ゾーン、かつ24000円台の『VIX ショック』直前の高値を付けた18年1月以来の60%超の高水準であることから、今週、急落調整が起きない可能性も示唆しており、その場合は来週の急反発の可能性も小さくなることも想定しておかなければなりません。先々週、『RU-RD 指標』の5週連続プラス圏は13年8月26日週~9月23日週以来、6年振りに表れた極めて稀な現象です。当時は、それからアベノミクス相場の第2弾の上昇が始まり、13年12月高値16320円まで約2割超の上昇を見せています。ただ、現在の局面と当時との違いを言えば、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が13年9月23日週+15.7%と上昇余地を残した段階で表れたのに対し、今回5週連続プラス圏の9月13日週+55.7%と上限ゾーンまで一気に上昇してしまっていることです。同指標がここまで上昇しているということは上値は限定的で、更なる上昇には一旦調整する必要があるようです。』と指摘し、先週、一旦調整の兆しが現れ始めました。『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が18年1月以来の60%超の高水準ということは日経平均の上値が限定的であると同時に、いつ急落調整が起きてもおかしくない水準であることを頭の片隅においておかなければなりません。

今週は、経済指標では、国内は、30日に8月商業動態統計、8月鉱工業生産、10月1日に9月調査日銀短観、8月失業率・有効求人倍率、9月自動車販売台数、2日に9月マネタリーベース、

9月消費動向調査、海外30日に中国9月製造業PMI、10月1日に米9月ISM製造業景況指数、4日に米9月雇用統計、米8月貿易収支が予定されています。10月1日発表の米9月ISM製造業景況指数は50.5と、8月の49.1から改善が見込まれ、経済活動の拡大と縮小の境目である50を上回り、景況感の回復が示されれば株高要因となる一方、10月4日発表の9月雇用統計は、失業率3.6%、非農業部門雇用者数は前月比+14.0万人、平均時給は前年比+3.2%と見込まれ、非農業部門雇用者数が市場予想を下回った場合は株安要因となるため強弱が拮抗しそうです。このほかのイベント・トピックスとしては、国内は30日に9月18日・19日開催の日銀金融政策決定会合の主な意見、10月1日消費増税開始、海外は、10月1日に中国建国70周年の記念式典で習国家主席が演説、中国・香港市場は国慶節で休場(7日まで)です。」とコメントしました。



9月13日週	9月20日週	9月27日週	10月4日週
¥21,988.29	¥22,079.09	¥21,878.90	¥21,410.20
29.6%	28.0%	78.60%	-7.4%

先週の日経平均は、高値 21938 円(10 月 1 日)・安値 21276 円(10 月 4 日)と推移、2 週連続で前半高・後半安の弱いかたち。先週は、米財務省報道官が中国企業の米国市場での上場廃止を検討との報道や 9 月のサプライマネジメント協会 (ISM) 製造業景況指数が 2009 年以来の最低水準となったこと、さらに 9 月 ISM 非製造業景況感指数が約 3 年ぶりの低水準となったことから景気減速への警戒感が広がり下値目標値を下回りましたが、軟調な経済指標が続いたことで利下げを予想する見方が強まったことで上昇に転じ、週間ベースで+69 円高と小幅反発して終了しています(先週予告していた上値メド 22512 円~22962 円(+2%かい離)//下値メド 21888 円~21450 円(-2%かい離))。『大台替えと時間の物理学的法則』では、小刻みの大台替えで、15 日(日曜日、月曜日)も祝日のため猶予で火曜日 17 日)までに 22500 円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが、実現せず時間切れ、逆に、10 月 3 日に 21500 円大台割れで下落スタート。21000 円大台割れでカウントダウンの下落局面、逆に、22000 円大台替えで仕切り直しが入ります。中期の大台替えでは、3 月 30 日までに 22000 円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。23000 円大台替えで仕切り直し、逆に、20000 円大台割れで下落スタートとなります。また長期の方向を示す月ベースの大台替えの法則では、9 月 22000 円大台替えで仕切り直しが入りました。23000 円大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、21000 円大台割れで下落スタートとなります。これで短期↓、中期→、長期↑となり、長期的には強含みですが、短期的には乱高下しやすいかたちに変化しました。

日経平均を左右する NY ダウは、高値 27046 ドル(10 月 1 日)・安値 25743 ドル(10 月 3 日)と推移、2 週連続で前半高・後半安の弱いかたち。先週は、10 月 1 日発表の 9 月米 ISM 製造業景況指数は 2 カ月連続で節目の 50 を割り込み、10 年ぶりの低水準に落ち込んだことに加え、3 日発表の 9 月米 ISM 非製造業景況指数も約 3 年ぶりの低水準で市場予想を下回ったことから前の週末終値から 1000 ドル超安となって下値目標値下回りましたが、週末金曜日に発表された米 9 月雇用統計で、9 月の非農業部門雇用者数は市場予想をやや下回ったものの、失業率は 50 年ぶりの低水準となる 3.5%に低下したことから景気後退の懸念は和らいだことで急反発、週間ベースでは-247 ドル安と 2 週連続安ながら小幅安で終了しています(先週予告していた上値メド 27170 ドル~27713 ドル(+2%かい離)//下値メド 26690 ドル~26156 ドル(-2%かい離))。「大台替えの法則」では、短期の大台替えで、17 日までに 27500 ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが時間切れ。逆に、10 月 2 日に 26500 ドル大台割れで下落スタート、さらに 26000 ドル大台割れでカウントダウンの下落局面入りに 0 日間、従って、猶予で 3 日までに 25500 ドル大台割れでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず、逆に、10 月 4 日に 26500 ドル大台替えで仕切り直しが入りました。27000 ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、26000 ドル大台割れで下落スタートとなります。中期の方向を示す月ベースでは、9 月 11 日に 27000 ドル大台替えで仕切り直しが入りましたが、逆に、10 月 2 日に 26000 ドル大台割れで下落スタートとなりました。25000 ドル大台割れでカウントダウンの下落局面、逆に、27000 ドル大台替えで仕切り直しが入ります。長期の方

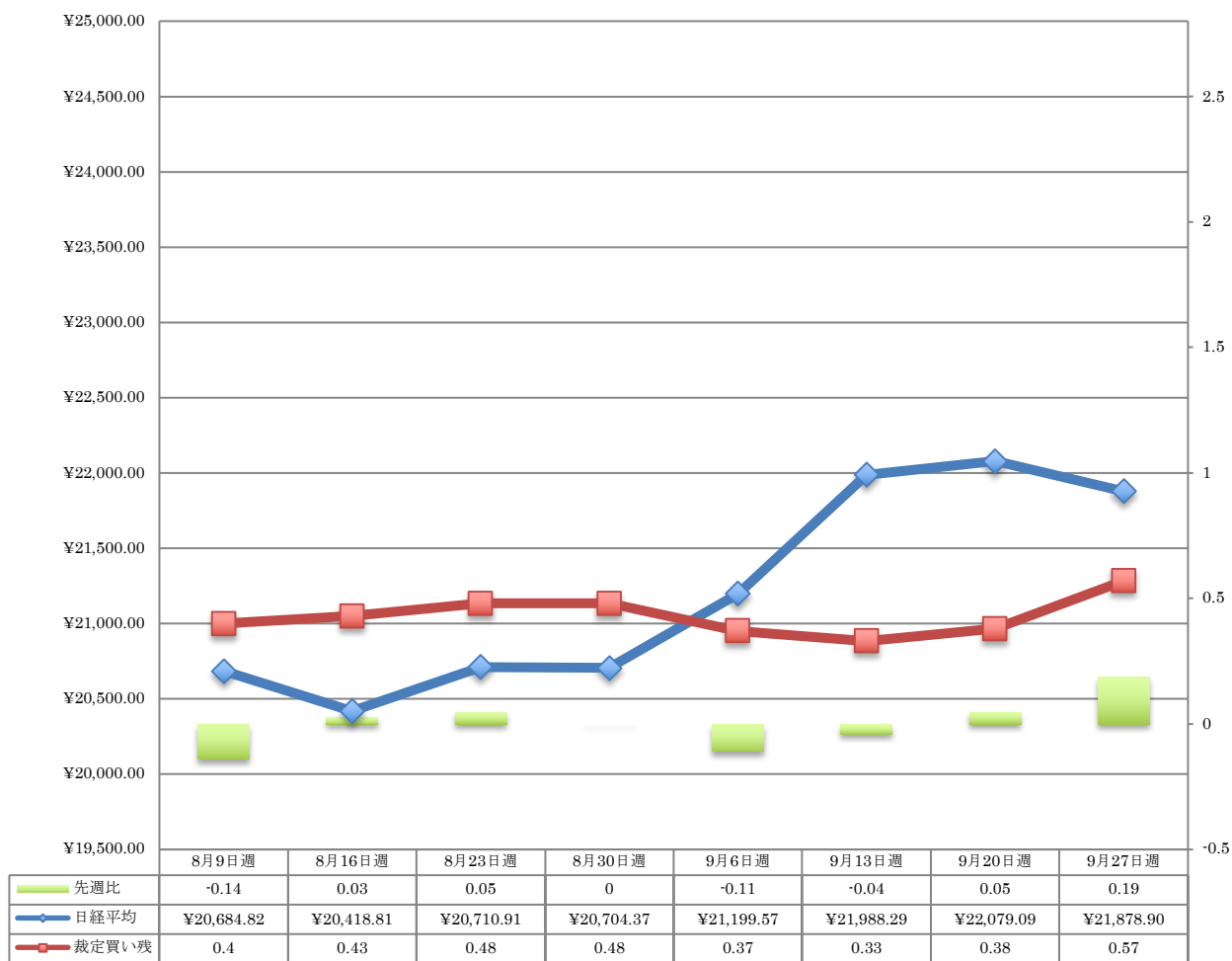
向を示す月ベースでは、9月に27000ドル大台替えて仕切り直しが入りましたが、逆に、10月26000ドル大台割れで下落スタートとなりました。25000ドル大台割れでカウントダウンの下落局面、逆に、27000ドル大台替えて仕切り直しが入ります。これで短期↑、中期↓、長期↓となり、中・長期的には弱含みながらも短期的には強含みで乱高下しやすいかたちに変化しました。

一方、為替は、ドル・円が108.46円～106.47円(先週予告していた上値メド108.43円～109.51円(+1%かい離)//下値メド107.19円～106.11円(-1%かい離))と推移、上値・下値両目標値を達成しましたが、実質2週連続で円高・ドル安、ドル・ユーロは、1.0999～1.0877(先週予告していた上値メド1.1039～1.1149(+1%かい離)//下値メド1.0904～1.0794(-1%かい離))と推移し、下値目標値を達成する2週連続のドル高・ユーロ安。また、ユーロ円は、118.21円～117.04円(先週予告していた上値メド119.13円～120.32円(+1%かい離)//下値メド117.20円～116.02円(-1%かい離))と推移し、下値目標値を達成する2週連続の円高・ユーロ安。前の週の円>ドル>ユーロが継続し、2週連続で円高修正となったかたちです。10月1日発表の9月米ISM製造業景況指数が2カ月連続で節目の50を割り込み、10年ぶりの低水準に落ち込んだことに加え、3日発表の9月米ISM非製造業景況指数も市場予想を下回ったことから、10月追加利下げを織り込むドル売りが優勢となったかたちです。

<裁定買い残>

2週連続で増加しています。ただ、以前から指摘してきた通り、5000億円前後の歴史的底水準を行ったり来たりしてる状況に変化はありません。昨年12月末の5000億円台から約3倍近い1.4兆円台の水準まで回復した後、5000億円前後まで再び減少して2番底のような動きとなっています。過去の推移を振り返ると、昨年9月14日週～28日週の3週間合計で+1.12兆円の急増となり、昨年5月21日週以来、約4ヶ月振りに2兆5000億円台を回復して昨年10月2日の日経平均の年初来高値更新を演出しました。その後、昨年10月1日週～10月26日週の4週連続減少、4週間合計で約1.5兆円急減、この4週間のうち1週間は5000億円の急減で昨年2月5日週以来。やはり昨年10月からの暴落は「VIXショック」と同様、投機筋の外国人の売り仕掛けだったことを証明しています。

裁定買い残と先週比



	9月6日週	9月13日週	9月20日週	9月27日週
日経平均	¥21,199.57	¥21,988.29	¥22,079.09	¥21,878.90
裁定買い残	0.37	0.33	0.38	0.57
先週比	-0.11	-0.04	0.05	0.19

単位:兆円

<今週のマーケットの見通し>

今週は本来なら急反発が期待される週となりそうです。今週(10/7~10/11)の相場を占う『RU-RD指標』は9月27日週が+27.8%と再びプラス圏に浮上していることから本来なら急反発が期待される週となりそうです。ただ、来週(10/14~10/18)の相場を占う10月4日週が-64.6%と再びマイナス圏、かつ一気に下限ゾーンまで落ち込み急落調整が予想されます。このように1週毎にプラス圏、マイナス圏が入れ替わるときは方向感が無くなり乱高下することを示しており、先物の場合、ポジションを大きくどちらかの方向に傾けないことをお勧めします。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』は9月13日週+55.7%→9月20日週+64.3%→9月27日週+68.6%と3週連続上限ゾーン、かつ24000円台の『VIXショック』直前の高値を付けた18年1月以来の60%超の高水準でしたが、先週、予告通りに急落調整が起きたことで10月4日週+25.7%までプラス幅が縮小しました。以前から、『RU-RD指標』の5週連続プラス圏は13年8月26日週~9月23日週以来、6年振りに表れた極めて稀な現象です。当時は、それからアベノミクス相場の第2弾の上昇が始まり、13年12月高値16320円まで約2割超の上昇を見せています。ただ、現在の局面と当時との違いを言えば、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が13年9月23日週+15.7%と上昇余地を残した段階で表れたのに対し、今回5週連続プラス圏の9月13日週+55.7%と上限ゾーンまで一気に上昇してしまっていることです。同指標がここまで上昇していることは上値は限定的で、更なる上昇には一旦調整する必要があるようです。』と指摘し、また先週は、『18年1月以来の60%超の高水準ということは日経平均の上値が限定的であると同時に、いつ急落調整が起きてもおかしくない水準であることを頭の片隅においておかなければなりません。』と指摘しましたが現実化したかたちです。今後は、乱高下しながら下値固めをする段階ですが、それには『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』がマイナス圏に陥らないことが重要です。マイナス圏に陥ると今回の調整が長引く可能性があるため、同指標の今後の動向に要注目です。

今週は、経済指標では、国内は、8日に9月景気ウォッチャー調査、8月家計調査、8月毎月勤労統計調査、10日に8月機械受注、海外は8日に9月生産者物価指数(PPI)、10日に9月消費者物価指数、などの発表が予定されています。10日発表の9月消費者物価コア指数(CPI)は前年比+2.4%でインフレ率は前回と同水準と予想されますが、市場予想と一致しても予防的な追加利下げの思惑を弱める材料にはなりにくいと思われる。このほかのイベント・トピックスとしては、海外は、9日に公表されるFOMC議事録(9月17-18日開催分)で、10月追加利下げの可能性を探る手がかり材料となる可能性があります。議事要旨に強気なトーンが示されなければドル売り要因となりそうです。

RU-RD指標と日経平均（週末終値）



9月27日週	10月4日週	10月11日週	10月18日週
¥21,878.90	¥21,410.20		
78.60%	-7.40%	27.80%	-64.60%

■■■ 今週の各指標の上値・下値メモ ■■■

<日経平均>

上値メモ 21757 円～22192 円 (+2%かい離)

下値メモ 21352 円～20924 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メモ 26478 ドル～27007 ドル (+2%かい離)

下値メモ 26113 ドル～25590 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メモ 107.79 円～108.86 円 (+1%かい離)

下値メモ 106.70 円～105.63 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メモ 1.0956～1.1065 (+1%かい離)

下値メモ 1.0853～1.0744 (-1%かい離)

<ユーロ円>

上値メモ 117.69 円～118.86 円 (+1%かい離)

下値メモ 116.44 円～115.27 円 (-1%かい離)

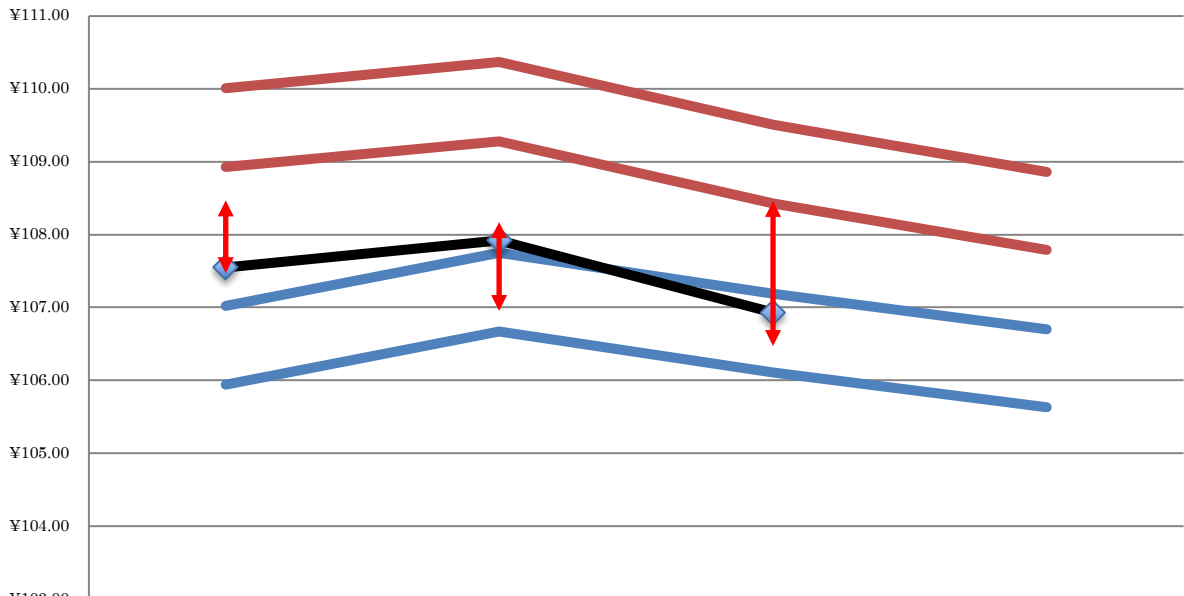
日経平均



NYダウ

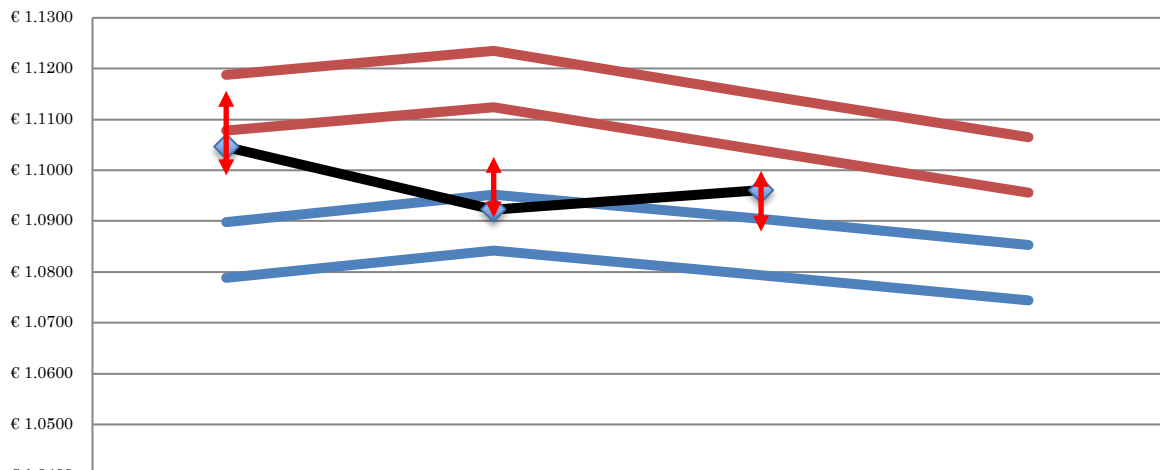


ドル円



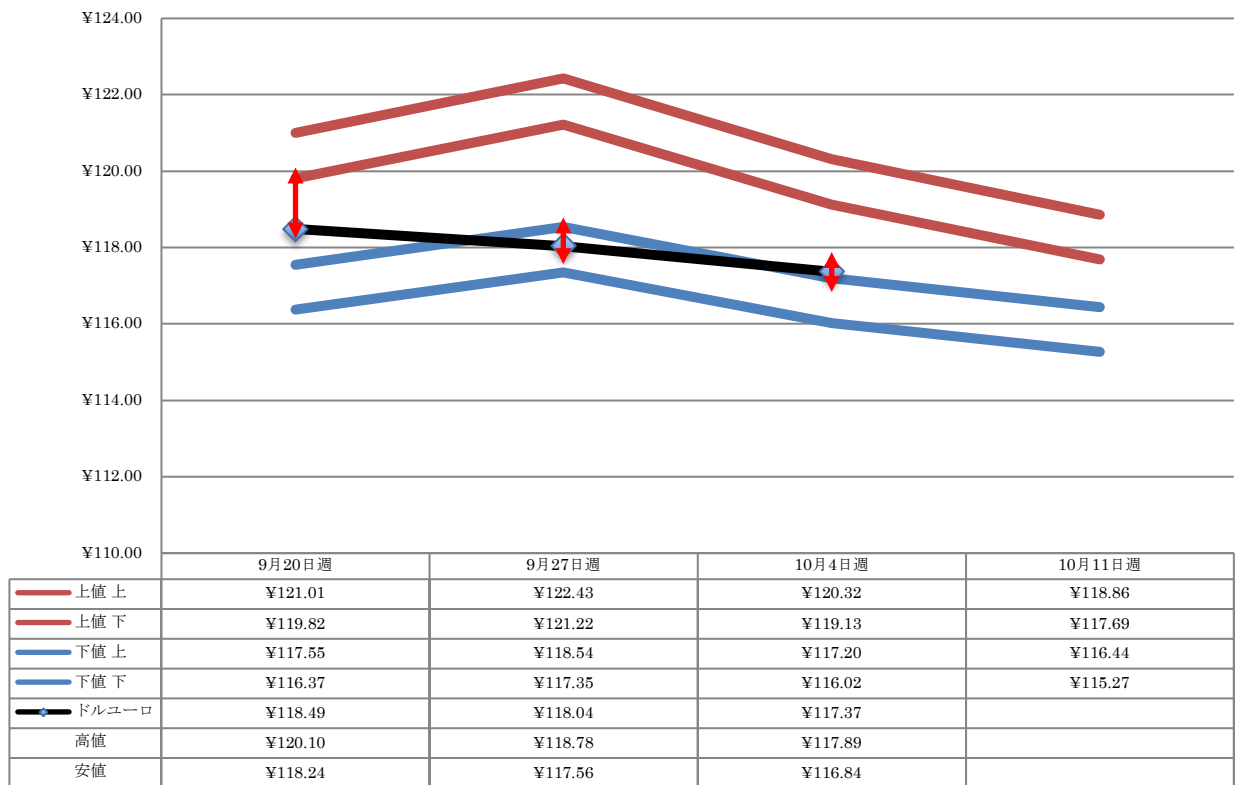
	9月20日週	9月27日週	10月4日週	10月11日週
上値 上	¥110.01	¥110.37	¥109.51	¥108.86
上値 下	¥108.93	¥109.28	¥108.43	¥107.79
下値 上	¥107.02	¥107.75	¥107.19	¥106.70
下値 下	¥105.94	¥106.67	¥106.11	¥105.63
ドル円	¥107.55	¥107.92	¥106.93	
高値	¥108.47	¥108.17	¥108.46	
安値	¥107.47	¥106.95	¥106.47	

ドルユーロ



	9月20日週	9月27日週	10月4日週	10月11日週
上値 上	€ 1.1188	€ 1.1235	€ 1.1149	€ 1.1065
上値 下	€ 1.1078	€ 1.1124	€ 1.1039	€ 1.0956
下値 上	€ 1.0898	€ 1.0952	€ 1.0904	€ 1.0853
下値 下	€ 1.0789	€ 1.0842	€ 1.0794	€ 1.0744
ドルユーロ	€ 1.1046	€ 1.0923	€ 1.0961	
高値	€ 1.1157	€ 1.1027	€ 1.0999	
安値	€ 1.0990	€ 1.0907	€ 1.0879	

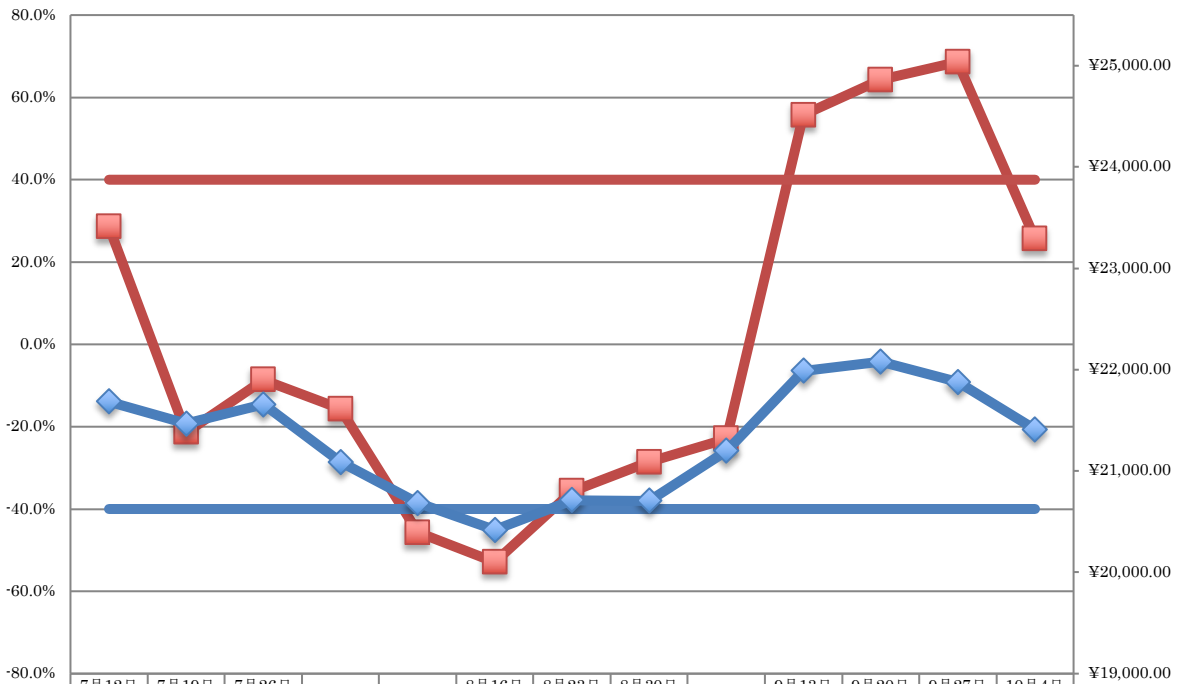
ユーロ円



■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。直近 5 月 17 日週-61.4%→5 月 24 日週-50.0%→5 月 31 日週-48.6%→6 月 7 日週-52.9%→6 月 14 日週-48.6%と 5 週連続で下限ゾーンに陥り、5 週連続下限ゾーンは 2016 年 2 月 8 日週～4 月 11 日週の 10 週連続下限ゾーン以来で、「チャイナ・ショック」時の底値形成の時期と現在は同じ衝撃度ということを示しています。その後、7 月 5 日週+17.1%と、4 月 22 日週+18.6%以来となる 10 週間振りのプラス転換、更に、7 月 12 日週+28.6%と 2 週連続プラス圏、かつ続伸したかたちでようやく本格上昇のスタートを切ったことを示しました。ただ、その後、7 月 19 日週-21.4%→7 月 26 日週-8.6%→8 月 2 日週-15.7%→8 月 9 日週-45.7%→8 月 16 日週-52.9%→8 月 23 日週-35.7%→8 月 30 日週-28.6%→9 月 6 日週-22.9%と 8 週連続マイナス圏に再び陥っていましたが、今回 9 月 13 日週+55.7%→9 月 20 日週+64.3%→9 月 27 日週+68.6%と一気に 3 週連続で上限ゾーンまで急上昇しており、60%超は『VIX ショック』直前の 18 年 1 月に付けた高水準。このようなかたちは極めて稀なかたちです。今後の相場の強さを表しているのか、もしくは今回の反発が短命で終わることを示す指標の動きなのか、今後の同指標の動きが注目されるどころです。10 月 4 日週は+25.7%までプラス幅が縮小し、一旦、調整したかたちですが、4 週連続プラス圏を続けており、調整が長引かないためにもプラス圏を継続することが重要かと思われます。今 4 月までの上昇相場のと きも同指標は、1 月 14 日週～4 月 22 日週まで 15 週連続でプラス圏を続けています。

日経平均とT2レーティング比率



	7月12日 週	7月19日 週	7月26日 週	8月2日週	8月9日週	8月16日 週	8月23日 週	8月30日 週	9月6日週	9月13日 週	9月20日 週	9月27日 週	10月4日 週
■ 銘柄比率	28.6%	-21.4%	-8.6%	-15.7%	-45.7%	-52.9%	-35.7%	-28.6%	-22.9%	55.7%	64.3%	68.6%	25.7%
— 上限	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%
— 下限	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%
◆ 日経平均	¥21,685.9	¥21,466.9	¥21,658.1	¥21,087.1	¥20,684.8	¥20,418.8	¥20,710.9	¥20,704.3	¥21,199.5	¥21,988.2	¥22,079.0	¥21,878.9	¥21,410.2

□発行元:塚澤.com 運営事務局

□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

※免責事項※

「塚澤.com 今週の T2経済レポート」は、

株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。

これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。

提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。